

第3回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会 議事要旨

1. 体験的歴史学習基本構想(案)について

- ・第1・2回委員会における議論を踏まえ、体験的歴史学習基本構想(案)について、事務局より説明を行い、委員より了承を得た。

2. 委員からの主な意見

<体験的歴史学習のテーマ・学習分野・手法等について>

- ・これまでの議論を踏まえてよくまとまっている反面、たくさんの要素を盛り込みすぎて総花的になっている。今後はメニューの中から目玉となるものをつくっていくべきである。
- ・あまりテーマを広げると大変であるため、橿原考古学研究所附属博物館や飛鳥資料館等の既存施設との連携・分担のもとに検討するべきである。
- ・渡来人や渡来文化は、研究があまり進んでいない分野であり、日本人のアイデンティティに関わってくるため取り扱いが難しいテーマである。渡来文化がただ受け入れられたというだけでなく、日本古来の文化の継承や、渡来文化との融合等の視点を明確にする必要がある。
- ・本地区は渡来系の遺跡が残る飛鳥西南部に位置するだけでなく、高松塚古墳等と一体的に陵墓の地として位置づけられる。このため、歴史的な空間の取り扱いは、もう少し広いエリアで捉えてはどうか。
- ・来園者の大半は観光客であると考えられる。観光客が「何気なく訪ねて、否応無く理解する」ための手法・プログラムを検討する必要がある。開園前から効果検証等の社会実験を行ってはどうか。
- ・文化財の展示について、ガラスケースに入れた展示だけでなく、自由に触れる展示など他所ではやってないような、枠に捉われない新しい展示を目指してもらいたい。
- ・体験的歴史学習のテーマの一つが古墳壁画であるならば、キトラ古墳壁画とともに高松塚古墳壁画の取扱いについても考える必要がある。
- ・高松塚古墳壁画については、文化庁において修復後の行方が定まっていないため、現段階では検討できない。
- ・発掘主体ごとに出土資料の展示を行っている現況を鑑み、体験学習館は関係行政機関の共同運営のもと、飛鳥地方全体の成果を展示できるような施設としてはどうか。
- ・村内の出土資料も体験学習館に展示してはどうかとの意見もあるが、体験学習館の展示の核となるのはキトラ古墳の壁画である。壁画以外に何を展示するかについては、既存施設との連携を十分に取りながら、今後検討するべきである。
- ・体験的歴史学習を実現するためには、たくさんの専門家が必要である。文化財だけでなく、明日香の民俗等についての専門家も学芸員として体験学習館に入れてはどうか。そして、毎年体験学習館でイベント等についての企画会議のようなものができるといい。
- ・それぞれの機能をただ配置するだけでなく、機能同士を有機的につなげて、各エリアや施設をどのように関係づけていくかが課題である。

<施設の整備について>

- ・飛鳥・藤原地域が世界遺産の暫定リストに掲載されていることを踏まえ、本地区の整備についても、世界遺産のオーセンティシティ(真正性)を視野に入れて検討する必要がある。
- ・檜隈寺跡周辺について、来園者が往時の風景を体感でき、地区の景観的なシンボルともなるように檜隈寺跡の伽藍を復元してはどうか。
- ・復元は現実的に難しい面もあるので、地区の目玉という意味からも、バーチャルリアリティ等の手法を検討してはどうか。
- ・体験工房の位置は、檜隈寺跡に隣接するため、もう少し離れたほうがよい。また、来園者がここに本当に工房があったと誤解しないように配慮が必要である。
- ・駐車場から体験学習館やキトラ古墳へは、地下道を通して村道を渡るしかなく、アクセスが悪いのではないかと。
- ・周辺の地域に田畑があるのに、田園環境保全ゾーンに棚田を残す必要は無いのではないかと。

<多様な主体の参画による管理運営について>

- ・ユーザーがいつ来ても楽しめる、飽きの来ない「生きている歴史公園づくり」が重要であるが、成功するか否かは管理・リフォームでどう対応していけるかに尽きる。
- ・今後も様々な発見やニーズが生じることが想定されるが、変化に柔軟に対応していける管理運営組織をつくる必要がある。
- ・「つくりあげていく公園」「育てていける公園」というところに魅力を感じる。「飛鳥方式」として、開園前からの地域との連携など、既存の公園でできなかったことに取り組んでもらいたい。また、開園後も、地域の参画を促すためにハードルを低いままにしてもらいたい。
- ・公園整備と村の活性化をどう連携させていくかが課題である。管理運営には市民が参画できるようなあり方を模索してもらいたい。
- ・管理運営への市民参画は、単なるボランティアではなく、どのような展開がなされるのか期待する。例えば、管理運営の中核を担うようなものや、NPO、アウトソーシングなど様々な形態が考えられる。
- ・本地区の整備に伴い、公園区域内外の景観の変化が懸念されるが、地域と連携しながら考えていくべきである。
- ・村の活性化のために、体験学習館は収益施設として運営し、村民の雇用の場となるようにしてもらいたい。今後は施設の料金徴収についての議論も必要である。

<その他>

- ・文化庁より、キトラ古墳壁画の保存作業のスケジュールについて報告があった。
 - 現在～平成23年度(予定): 余白部分の剥ぎ取り作業
 - 平成24～27年度(予定): 床面の調査
 - 床面を外すか否かの検討
 - 床面の処置
 - 墳丘南側に設置した施設の撤去、墳丘の整備等